

1 調査名称：名古屋駅乗換空間のユニバーサルデザイン実施方針検討調査

2 調査主体：名古屋市

3 調査圏域：名古屋駅周辺

4 調査期間：平成29年度

5 調査概要：

本業務は、「名古屋駅周辺交通整備方針」を踏まえ、ユニバーサルデザインの考え方に基づく移動の負担軽減を図るため、各障害者団体の意見を集約し、効果的な移動円滑化方策の検討を行うものである。

I 調査概要

1 調査名称

名古屋駅乗換空間のユニバーサルデザイン実施方針検討調査

2 報告書目次

1. 調査の目的と内容
2. 来訪者への情報提供サービスについての勉強会
3. 現地の調査
4. 第3回関係団体ヒアリング調査
5. 第4回関係団体ヒアリング調査
6. 他都市の好事例について
7. 移動円滑化基準およびガイドライン改正の動向
8. 効果的な移動円滑化方策の検討事項（案）

参考資料1 現地の調査結果

参考資料2 中部国際空港ユニバーサルデザイン検討の経過

3 調査体制
該当なし

4 委員会名簿等：
該当なし

II 調査成果

1 調査目的

名古屋駅周辺交通基盤整備方針（平成 30 年 3 月）では、整備方針の 1 つに「ユニバーサルデザイン等に基づく空間形成」を掲げている。

本業務は、整備方針を踏まえ、ユニバーサルデザインの考え方に基づく移動の負担軽減を図るため、各障害者団体の意見を集約し、効果的な移動円滑化方策の検討を行うものである。

① バリアフリー等の視点に基づく整備

- ・ 主要な乗換動線をできる限り直線化するとともに、上下双方向のエスカレーターやエレベーター等の適切な配置を検討し、上下移動の負担を少なくします。
- ・ 待ち合わせ、休憩等のためのスペースの確保や、視覚障害者誘導用ブロックや点字案内、音声案内など、情報案内設備を充実させます。
- ・ 障害当事者等の意見や平成 32(2020)年東京オリンピック・パラリンピックの動向を踏まえ、国際レベルのターミナル駅にふさわしい水準の整備、改善を順次行っていきます。

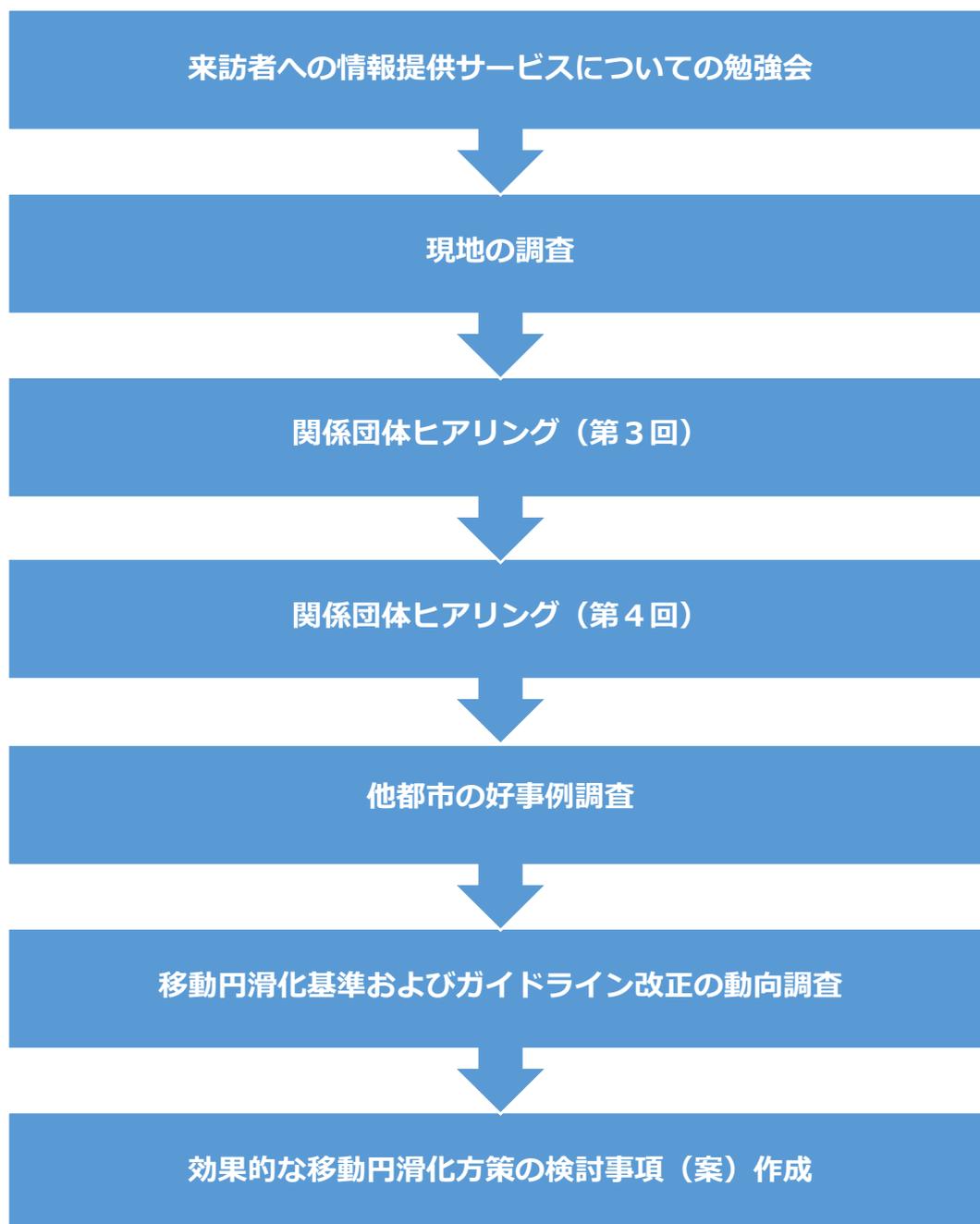
② 案内サインの充実

- ・ 適切な配置、表記方法の工夫をするなど、シンプルでわかりやすく、一体性・連続性・継続性のあるサインとなるよう改善します。
- ・ 地下街等周辺施設、道路上の歩行者系サインとの整合を図ります。
- ・ 障害当事者等の意見や平成 32(2020)年東京オリンピック・パラリンピックの動向を踏まえ、国際レベルのターミナル駅にふさわしい水準の整備、改善を順次行っていきます。

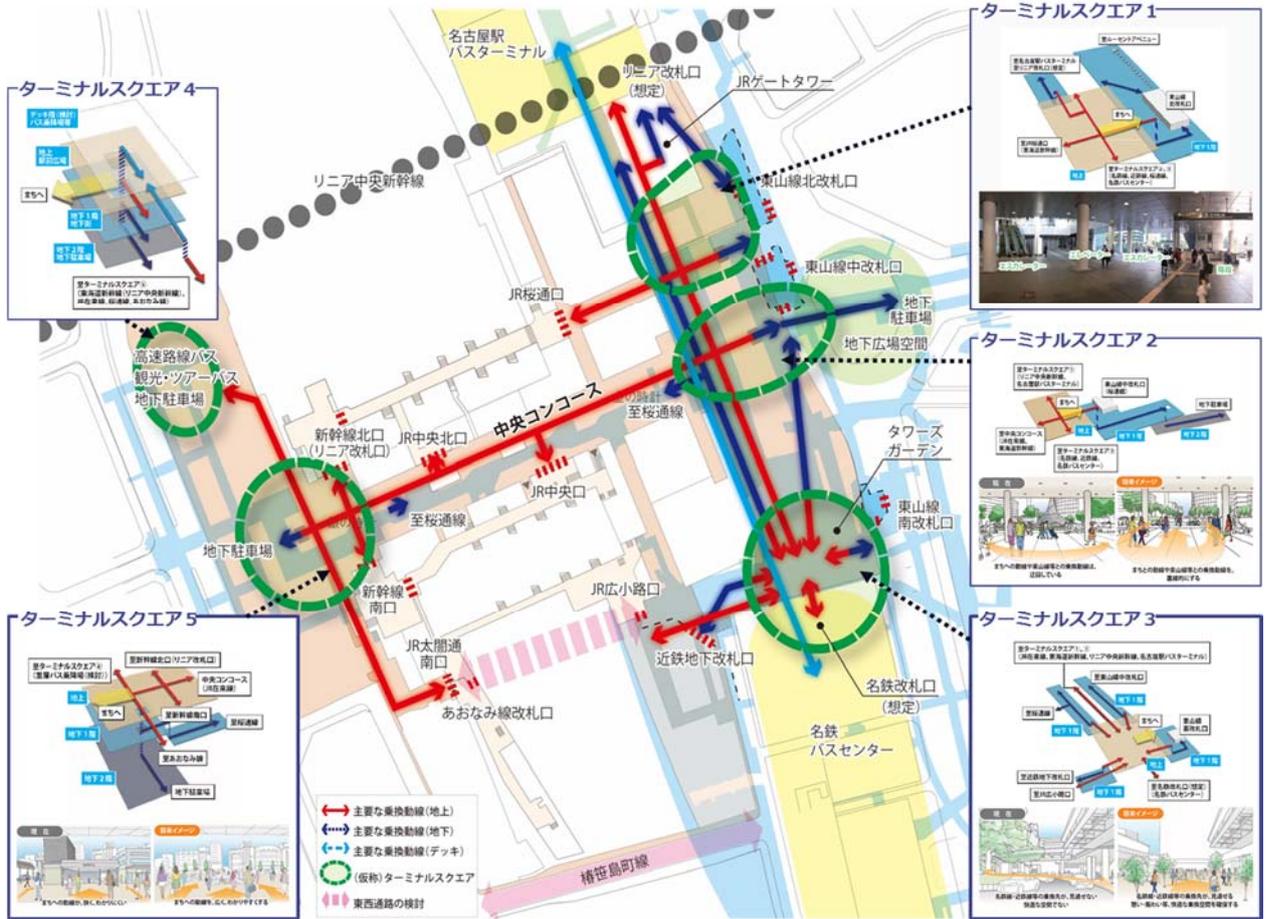
③ ソフト面の充実

- ・ スマートフォン等の情報通信技術の活用により、目的地までの誘導情報の提供やコミュニケーションの円滑化を図ります。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

検討項目	検討事項
来訪者への情報提供サービスについての勉強会	3人の講師を招いて「五感に訴えかける空間デザインの可能性と情報提供のあり方」、「ユニバーサルデザインと交通施設」、「スマートステーションなごや構想と次世代屋内空間情報サービス」について講義頂き、関係者で共有した。
現地の調査	バリアフリー設備（昇降設備や誘導案内設備等）の配置、段差、案内サイン、人的対応等を把握するため、現地の調査を実施した。
第3回関係団体ヒアリング調査	昨年度に実施した関係団体ヒアリングや現地の調査等を踏まえ、当事者属性ごとのグループに分かれて、バリアフリー設備（昇降設備や誘導案内設備等）、案内サインなど意見をまとめた。
第4回関係団体ヒアリング調査	第3回関係団体ヒアリングでいただいた意見の中から、エレベーターやエスカレーター等の昇降設備の配置について、当事者属性ごとのグループに分かれて意見をまとめた。
他都市の好事例について	エレベーター等の昇降施設等の配置やリフト付きタクシー乗降場等の動線計画、案内サイン、バリアフリーマップ等の調査を行った。
移動円滑化基準およびガイドライン改正の動向	平成30年2月に国土交通省総合政策局より示された移動円滑化のために必要な旅客施設又は車両の構造及び設備に関する基準を定める省令の一部を改正する省令案、バリアフリーガイドライン(案)と現行の省令及びガイドラインと比較を行った。
効果的な移動円滑化方策の検討事項(案)作成	関係団体ヒアリング調査等の結果に基づき、高齢者や身体障害者等の上下移動や距離の長い水平移動の負担を軽減し、移動円滑化を図るための設計上の留意事項を示した。